

衆議院議長 様
参議院議長 様

木更津へのオスプレイ配備計画の撤回を求める

原田憲治防衛副大臣は5月24日、千葉県・木更津市長らと面談し、陸上自衛隊が導入する垂直離着陸機V22オスプレイ17機の木更津駐屯地への「暫定配備」を要請しました。来年3月までに配備を開始し、2021年度までに全17機を配備する計画です。

木更津への配備計画は、日本版海兵隊「水陸機動団」（長崎県・相浦駐屯地）と一体に運用するために、佐賀空港をオスプレイの配備基地とする計画が、地元漁民を中心とする広範な市民の反対の声に直面し、行き詰まる中で出されてきたものです。

そもそもオスプレイを自衛隊が導入したのは、米海兵隊と一体の「殴り込み」作戦を展開できるようにするためであり、憲法9条と相容れません。沖縄・普天間基地に配備された自衛隊導入機と同型のMV22オスプレイは、配備以来、墜落と不時着などの事故やトラブルを繰り返し、重大事故率は配備時の約2倍に激増しています。そのため、沖縄県と県民はオスプレイの撤去を求めています。さらにオスプレイは、事実上オートローテーション（自動回転）機能を有しないなど、日本の航空法に照らしても飛ばしてはならない航空機です。このようなものを配備してよい地域は、日本のどこにも存在しません。

木更津駐屯地に17機のオスプレイを配備した場合、同基地配備航空機の離発着回数（年25000回）は4500回増加する見込みであることを防衛省も認めています。さらには習志野、相馬原、富士、房総半島など、周辺各地での訓練を繰り返すことが想定され、横田基地に配備されている米空軍CV22オスプレイや、沖縄・普天間基地配備の米海兵隊MV22オスプレイの飛来訓練とあわせ、この地域一帯が、「空飛ぶ棺桶」とも呼ばれるオスプレイの訓練拠点とされることになる。

このような国民の命と安全を脅かし、憲法も蹂躪するオスプレイ配備計画は、佐賀でも木更津でもただちに中止すべきです。この危険極まりないオスプレイ導入計画をただちに中止し、アメリカに返上すべきです。

【請願事項】 オスプレイの陸上自衛隊木更津駐屯地への配備計画を撤回すること。

氏名	住所

取扱い団体

送り先 千葉県平和委員会

〒262-0032 千葉市花見川区幕張町4-524-2 民医連事務センタービル2階